

## 第4章 市域全体のまちづくり計画

「都市ビジョン」と9つの「藤沢づくりのめざす方向性」を達成するための、市域全体としての目標と活動の方針を掲げます。

具体的には、「ふじさわ未来課題」から導いたあるべき姿の実現に向けて、市域の目標となる「戦略目標」と、それを支える活動の方針となる「政策」、それぞれに対応する長期アウトカム指標を示します。

### 1 藤沢づくりの戦略目標と政策、指標

「重点・ふじさわ未来課題」の分析から導く戦略目標と政策、指標を示します。それぞれの詳細は、以降に示します。

### 2 藤沢づくりの都市構造、都市フレーム

藤沢づくりのための資源のひとつに、交通体系、都市拠点、自然環境の保全形成、市街地形成、地区別まちづくり拠点といった都市構造があります。

これらの貴重な財産を継承、発展させ、付加価値向上するために、都市フレームを示します。

#### (1) 3つの都市ビジョンに基づく都市フレーム

基本構想では、20年後までの自律と協働の姿として、将来像「[私たちの政府]が創る、いまも未来も住み続けたいまち「湘南ふじさわ」]」に基づき、将来像を実践していくための3つの基本理念、将来像を実現する「藤沢づくり」のめざす姿と活動として、3つの「都市ビジョン」と9つの「藤沢づくりのめざす方向性」が示されています。

基本計画では、3つの「都市ビジョン」と9つの「藤沢づくりのめざす方向性」を達成するための、市域全体としての戦略目標と目標をより具体化した活動の指針としての政策が位置づけられています。

市域全体のまちづくり計画に関しては、市民、地域と行政が協働、連携して「藤沢づくり」をすすめていくための基礎となる様々な資源、都市基盤、活動基盤等を都市空間としてイメージし、3つの都市ビジョンに基づく「藤沢づくり」のフレームを位置づけました。

#### ① 市民の力が育てる「生活充実都市ふじさわ」形成の素材

都市ビジョン1を実現するための3つの「藤沢づくり」のめざす方向性<sup>\*5</sup>の基本は、市民センター・公民館を核とした、市民、地域と行政の協働が創る地域のコミュニティ活動のネットワークにより形成されます。

コミュニティ活動のネットワークは、地区を越えた連携、協働によって

更に強化されます。それが「市民が育てる「生活充実都市ふじさわ」」の形成フレームです。

## ② 地域から地球に広がる「環境行動都市ふじさわ」の形成の素材

都市ビジョン2を実現するための3つの「藤沢づくり」のめざす方向性<sup>\*6</sup>の基本は、藤沢の財産である自然緑地系資源と歴史文科系資源を継承・発展することにより形成されます。

市民、地域と行政が連携、協働して、これらの資源に加え、穏やかな社会環境を次世代に継承、発展させていくことが「地域から地球に広がる「環境行動都市ふじさわ」」の形成フレームです。

## ③ さらに可能性を追求する「創造発信都市ふじさわ」形成の素材

都市ビジョン3を実現するための3つの「藤沢づくり」のめざす方向性<sup>\*7</sup>の基本は、都市の骨格である交通基盤、産業基盤、知財基盤等の都市資源を有効に活用した、様々な主体の都市活動の連携とネットワークによって形成されます。

それが「さらに可能性を追求する「創造発信都市ふじさわ」」の形成フレームです。

※5 都市ビジョン1を実現するための3つの「藤沢づくり」のめざす方向性：  
地域自律型の「藤沢づくり」を育むまち  
明日の藤沢を担う「藤沢の子どもたち」を育む環境  
市民力・地域力による安全で安心して暮らせるまち

※6 都市ビジョン2を実現するための3つの「藤沢づくり」のめざす方向性：  
共に生き、共に創る地域社会の創出  
豊かな地域資源の次世代への継承・発展  
地球温暖化防止など未来の地球環境への投資

※7 都市ビジョン3を実現するための3つの「藤沢づくり」のめざす方向性：  
「藤沢づくり」を支える都市構造の再構築と地域経済の活力再生  
公共資産の維持管理と有効活用  
「藤沢ライフスタイル」と「湘南カルチャー」の創出

### 1. 3つの都市ビジョンに基づく都市フレーム

市民の力が育てる

## 1-1. 「生活充実都市ふじさわ」形成の素材

市民センター・公民館を核とした地域のコミュニティ活動の拠点ネットワーク

- 目指す方向性
1. 地域自律型の「藤沢づくり」を育むまち
  2. 明日の藤沢を担う「藤沢の子どもたち」を育む環境
  3. 市民力・地域力による安全で安心して暮らせるまち

